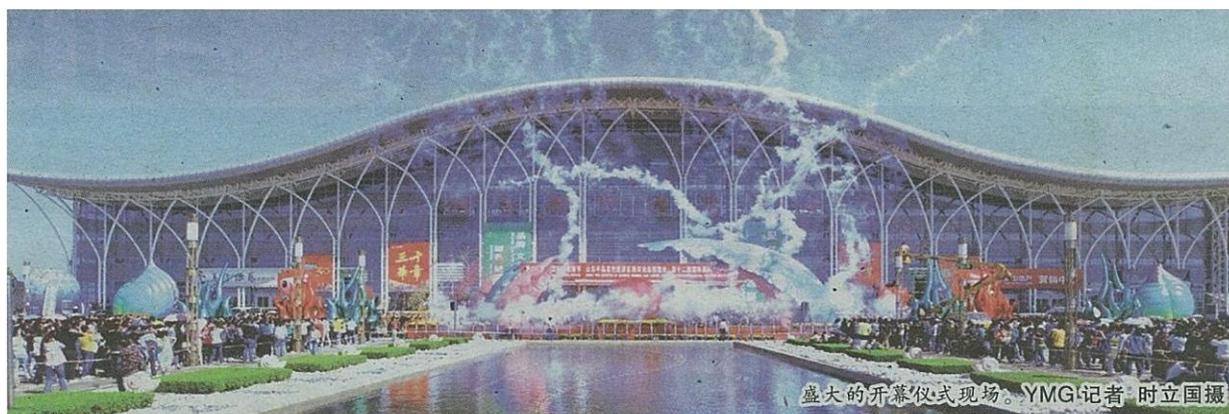


# 中国調査団

( レポ ー ト )



国際博覧センターの正面玄関 「煙台晩報」新聞より

本年度は3.11震災という未曾有の災害が発生した。日本人にとって、大震災（マグニチュードM9以上）は東北・関東全域に強震と大津波に連動した原発事故の発生と言った最悪の三重苦による精神的な負担を強いられている。

その中で、当財団は昨年と同時期に第12回国際果蔬・食品博覧会（開催地：煙台市）を中心に、第2回目の中国調査団を編成した。昨年は同博覧会に参加するにあたり、成田発、北京経由で煙台市に入ったが、本年は成田発、上海経由で同市に入るコースを選択した。

## 中国調査団の日程

日 程	滞在場所	訪 問 先 等
9/20 (火)	東 京  上 海	成田空港 集合9:50 出発 → 11:55 上海（浦東） 午後 JETRO上海代表処 訪問 上海伊勢丹 訪問 久光（上海地区） 訪問
9/21 (水)	上 海	午前 伊藤忠商事株式会社、グルナビ上海 訪問 午後 技能実習生送出し機関2社 訪問
9/22 (木)	上 海  煙 台	午前 上海 → 煙台 上海（浦東）空港11:00 出発 煙台空港 12:00 到着 午後 煙台市政府 表敬訪問 18:00 第12回国際果蔬・食品博覧会 レプション
9/23 (金)	煙 台	午前 第12回 国際果蔬・食品博覧会 開幕式典 午後 技能実習生送出し機関関係語学学校 訪問
9/24 (土)	煙 台	第12回国際果蔬・食品博覧会の視察及び資料収集 (名刺交換) ※希望者は別コースにて企業訪問1~2社
9/25 (日)	煙 台 上 海 成 田	煙台空港 8:00 → 9:35 上海（浦東）空港到着 上海（浦東）空港 13:10 → 17:00 成田空港到着

## ○主な訪問先について訪問の概要

- JETRO（日本貿易振興機構）上海代表処  
調査団活動の開始にあたり、同代表処を訪問し、最近の中国ないしは生活圏の経済社会情勢などについてヒアリングさせていただいた。
- 「上海伊勢丹」  
上海に進出した伊勢丹デパートの現状について、ヒアリングさせていただいた。
- 「久光」＝上海地区  
中国最大の商業中心地である上海の経済成長の現状と純中国資本のデパートを視察し、消費の実情について調査した。
- 日本企業の現地での企業の展開形態について視察  
「伊藤忠商事株式会社」、「ぐるなび上海」において、上海の経済状況についてヒアリングさせていただいた。
- 第12回国際青蔬・食品博覧会の視察（於：国際博覧センター）  
開催された第12回国際果蔬・食品博覧会および併行して第5回煙台国際ワインフェスティバル、山東省青色経済区海洋食品博覧会を視察した。
- 技能実習生送出し機関訪問（送出し機関関係語学学校・教育システムを含む）。  
上海市の送出し機関を訪問したほか、山東省での送出し機関と現地で懇談を行い、技能実習制度の誠実な運用について意見交換をした。

## ○主な訪問先での応答等の要旨は次の通り

### 9月20日（火）09：50成田国際空港発 NH0919 → 11：55上海浦東空港着

丁度、出発日にかけて日本本土に接近する台風15号が上海コースを横切る予報であった。タイミング良く、かろうじて台風を避けるように、無事に薄曇りの上海浦東空港に到着した。チャーターされたマイクロバスに眞弓団長はじめ一行6名が同乗して、中国での行事が開始された。

### 9月20日（火）訪問先： JETRO（日本貿易振興機構 上海代表処）15：55～16：00

○対応者 上本真紀子・市場開発部（農林水産）部長

西村 敦・2011年度 中小企業海外展開支援コーディネーター（農林水産・食品）

ヒアリングの絞り込みとして、3.11震災後における中国および上海市にとって、どの程度の貿易関係に影響を及ぼしているか。現場の生の声を聞くことができた。

回答⇒現状においては、福島、宮城両県からの輸入品に関して全面的な禁止措置が取られている。風評被害もさることながら、前提となる放射能検査の証明書発行が事実上、公式的な検査基準方法が確立されていないために、我が国からの輸出が不可能になっている。

但し、5月末ごろから水産物（干しあわび、海鼠など）に限り、日中の二国間協議に基づいて輸入が許可されている。日本食材品に関しては、中国側からの引き合いが強く、香港、バンコク経由をして上海に入荷している。

今年に入り、日本の上場企業（外食企業）の中国、東南アジア進出および市場調査の実施が具体化している。特に、我が国の外食産業の伸びは、ほぼ飽和状態に達しており、今後の市場活性化を図るため中国、東南アジアおよび海外市場への先行投資としての見通しは、急先鋒の状況を呈している。既に、サイゼリア、ココイチ（カレーハウス CoCo 壺番屋）、すかいらーくと云ったレストラン業態の進出は急である。特にサイゼリアは中国に55店舗を出店している。なお同企業の店舗運営スタッフの部長クラスはほぼ中国人に任されている。



新旧建物の混在する上海市街

市況を見ると、人件費は毎年 10%程度の増加傾向を見せている。それに伴って、家賃も毎年 5~10%の値上がりをしている。

現在の上海における最低賃金水準は、日本円（1 元=12 円の換算とする）にして月に約 1 万 5 千円である。大学卒の初任給は約 2 万 3 千円程度である。中国人の仕事に関する意識は、終身雇用という概念はなく、常に転職をすることを生きがいに感じている。

上海における一般的なサラリーマンの昼食に支払う金額は平均 40~60 元（480~720 円）。夕食には 80~150 元（960~1,800 円）が通り相場である。庶民は昼食に 10 元（120 円）ぐらいで、出前も活発化している。

中国国内において食生活に影響を与えた要因として、北京オリンピック（2008 年夏季）と上海万博（開催期間：2010 年 5 月 1 日~10 月 31 日）の開催を挙げることができる。この二つの行事から中国の食生活は、大きな刺激を受けた。日本の食品企業にとって、中国に進出する大きな目安として、中国国内が広域において各地の食文化や味覚が相違することを把握することが是非とも必要がある。そのために日本の外食産業では味に対するレシピを工夫することに注意が払われた。例えば日清食品では、カップラーメンを製造する段階で、北京と上海別に、微妙に味と麺の太さなどを変えている。

味に対する中国人の情報検索として、口コミウェブサイトを利用する。さらに、より多様化として twitter を幅広く利用することがある。他方、日本各地の自治体（石川、長野、愛知、京都）でも情報宣伝方法としていくつかの試みが見られる。どの自治体も中国で単独であるいは独立した形で地方色のあるイベントを展開しているが、各自自治体同士の連携した開催がないために、予算計上額や企画規模ともに中途半端な一過性の催しに終わっている。今後とも、この手の催しでは長い目で見てそれほど効果は期待することができないのではないかと。ちなみにイベント要員（現地で中国人を採用する場合）時給 20~50 元（240~600 円）が相場となっている。

上海は歴史的に見ると、ヨーロッパ人が居住して生活を営むことのできる文化や建築様式を取り入れる程度の都市基盤であったが、近年に至り前述した国家を挙げての国際的イベントを開催できるほど経済力に実力をつけている。

一方で、いやおうなしに海外情報としてメディアを媒介するテレビ、映画、芸術、音楽、アニメ、風俗などを止めることのできない現実として体験することが今日的な情勢となった。特に中国の若者には、日本から流入する最新の音楽や、アニメ、風俗に興味をもっており、秋葉原のメイド喫茶なども違和感なしに受け入れられている。その一端として、中国全土でコスプレ会員クラブがあり、その数の会員数は 2 万人を上回る。



摩天楼郡のある上海市

とにかく若者の超最先端に対する執拗な興味と吸収力はずば抜けたものとなっている。全般的に言えることは、現時点でも made in JAPAN はゆるぎない地位を保っている。

**訪問先： 「久光百貨店」：17：00～17：20**

○対応者：繁田 穰・上海梅龍鎮伊勢丹上海百貨有限公司 第三営業部 高級経理

当店の床面積は45,000㎡。毎年130%の売上高増となっている。店舗の格付けとしては、高級品を取り扱う店として認知されている。一例として、日本産の富士りんご1個は280元(3,360円)で販売されている。寿司10巻入りは69元(828円)もするため、一般庶民としては手の出にくい値段設定となっている。山崎製パンが出店しているが同店の特徴として、インサイドベーカリー(店舗内に自前の焼き釜を設置して、製造と販売を一貫している。お客様には焼きたてのパンを目の前で、購入することができることを強調している)。中国女性のパンの好みは、菓子パン類を好む傾向にある。

**訪問先：「伊勢丹」：17：30～18：20**

○対応者：繁田 穰・上海梅龍鎮伊勢丹百貨有限公司 第三営業部 高級経理

当店は、上海市、香港・海龍の合弁による百貨店の形態を取っており、伊勢丹はテナントとして参入している。伊勢丹の売り場面積は15,000㎡を占めている。販売特徴として、婦人服に力を入れている。また中国人の子供政策(一人っ子政策)の影響で子供に投資したいという親の志向性が強いので、子供の習い事への提案(英会話、進学塾など)および子供用品や玩具類を含め、子供用へも大半を高級品の品揃えとしている。

**訪問先：「伊藤忠商事株式会社」：15：00～16：20**

○対応者：宇都宮正・東アジア区総裁補佐 経営管理責任者(兼)中国経営管理事業部総経理  
ヒアリングは下記の項目に沿って実施した。

質問1. 今年の3.11震災に伴って、日中間の貿易状況において、一番変化した事柄(事情)は何ですか。どのような分析をされているか。

回答① 原発事故後、台湾では福島産品に限って入ってきていない状態が続いている。中国では福島産に限らず、全般的に日本食品及び食材が禁輸の状況にある。

- 自動車関連の企業においては、我が国の東北地域からの部品が入手できずに、車の組み立て製造工程に支障をきたした状況が続いた。
- 中国人は地震や原発事故に非常に敏感であり、日本に就労している中国人全員に、マスメディアや携帯電話を通して、即刻帰国する通達をしたため、潮が引くように帰国者が増加した。一方、当然のことながら、日本へ渡航する人は皆無となった。

質問2. 日本の中小企業が中国に進出するに当たり、必要と思われる条件は何ですか。

- よい中国人パートナーを見つけることが一番肝要である。
- 中国で投資する際には、中国政府の関係省庁や関係担当者との交渉を頻繁に継続することが重要である。

質問3. 日本の中小企業の中で、どのような業種が有望視されるか。



伊藤忠商事オフィスからの展望(上海市内)

- 中国人の商売感覚は、薄利多売を念頭においていることである。
- そのため、最近ほどの分野(電気販売、スーパーマーケット、コンビニ、外食業)でも日本流を無理やりに持ち込んだとしても、受け入れる土壌はいまひとつである。参入する企業同士が価格競争に陥り、「共食い」現象をきたすことになる。



上海市郊外の風力発電風景

質問 4. 日本の企業が上海に拠点を築く場合に、労使関係を構築する手段はあるか。

- 中国人自らの社会的な人とのかかわりについて現状を見ると、労使関係は希薄なことが多い。人材派遣会社からの採用が多く見られるが、長期的に同じ企業で就労するといった考え方はない。また中国人自身で人を育てるとか、部下を育てるといった習慣が見られない。いつでも条件のよい企業があれば簡単に転職をする場合がある。上海にある外資系事務営業職で見ると平均賃金（ボーナスを含む）で1万円とされている。

質問 5. 御社の中国で一番売れている製品または商品はなんですか。

- 基本的には日本企業が中国内に進出している日本企業の現地工場に供給する化学品、自動車などの部品である。繊維業界向けの中間資材の供給も大きい。将来的にはハイアール（中国最大の家電メーカー）との提携を見据えている。

質問 6. 中国における、食品製造・販売部門の将来性について、ご見解を伺いたい。

- 日本の文化・食文化や味、メニューについてもネットやテレビ放映などから口コミによる拡がりまで至っている。これから更に急速な展開をすることが期待できる。

#### 訪問先：「ぐるなび上海」：16：50～18：00

○対応者：池澤勇夫・総経理、浦芳郎・営業部部长、趙剛・営業部総監

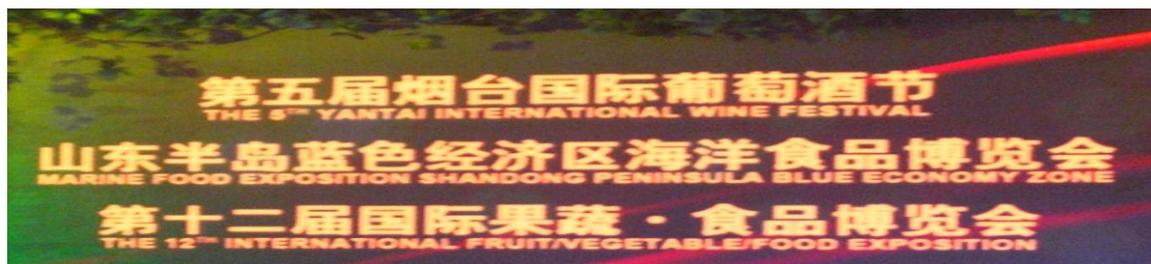
日本の食文化がブームのように火がつくことが多いが、味への執着性が長く根付くのは、かなりの困難を伴なう。そのような中で消極的に受身の姿勢から、一転して中国上海に進出することによって、経営を軌道に載せる積極的な企業がある。そのひとつが当企業で、ぐるなびの経営活動を見ると①広告掲載費を確保する。②大都市に特化して企業や物件を紹介する。③JETRO と協賛して、例えば日本の蔵元を招聘して、日本酒について展示・説明会を開催するなどがある。④当社では、今後とも継続的にテーマを決めて、イベント開催して行きたい、としている。

9月22日（木）10：30 上海浦東空港発 MU5543 → 12：00 煙台空港着

#### 「共青团煙台市委」による昼食会（招待）：12：30～14：20

○対応者：戴龍成、王傑、沈通訳担当

#### 第12回国際果蔬・食品博覧会レセプション：17：20～19：00



23日（金）の開幕式の前夜に公式晩餐会が開催された。昨年同様に豪華な晩餐会となったが、参加者としてのグループごとの年代層を見ると、ベテランの集団席は、あまり人目を引いていなかった。

他方、将来のリーダー格を担う若手のグループが大半の席を占めており、会場の雰囲気も若さの溢れた明るい式典会場であった。



公式晩餐会における眞弓 眞団長（右端の座っている方）

9月23日(金)

第12回国際果蔬・食品博覧会の開幕式：10：00～11：00



本报讯 (YMG 记者 孟宪臣) “葡海明珠, 舞动金秋”。美国驻华大使馆农业贸易处主任任龙峰, 香港冀鲁旅港同乡会理事长刘士凯, 南非驻上海总领事馆商务领事赛文·蒙茨雅尼, 智利驻华使馆参赞马塔玛拉, 日本贸易振兴机构原北京事务所所长江原规由, 韩国水产协会会长、水产团体协议会会长朴宰永, 日本水产协会会长白须敏郎, 泰国工商会副主席李荣, 日本国际劳工管理财团理事真弓真, 新加坡中华总商会商业委员会主席郑谦木, 香港豪德集团董事局主席王再兴等有关驻华使节、烟台市海外友好城市的有关领导、海外重要经济信息副巡视员陈丽水, 威海市市长孙述涛, 省发改委副



国際博覧センターにおいて10：00から1時間の開幕式が盛大に挙行された。その式典の内容を烟台晚报「YANTAI EVENING NEWS」から主な箇所を抜粋する。

新聞の見出しは「ワイン香る永遠のエコロジー海に焦点を当てるとともに発展を図る。『一つの祭りと二つの会』きらびやかに開幕」主な内容をかいつまんで要約する。注目を集めていた第5回烟台国際ワインフェスティバル、山東半島青色经济区海洋食品博覧会および第12回国際果蔬・食品博覧会が国際博覧センターで盛大に開幕した。

今回の烟台市における国際博覧センター会場内において、第5回烟台国際ワインフェスティバルは、国際葡萄ワイン機構(OIV)・

中国醸酒工業協会・中国酒類流通協会・山東省人民政府が主催し、テーマは「ブランド・文化・コラボレーション」である。第5回山東半島青色经济区海洋食品博覧会は、山東省人民政府が主催し、テーマは「海に焦点を当て共に発展を図る」となっている。第12回国際果蔬・食品博覧会は、国連アジア太平洋経済社会委員会、国連アジア太平洋地域農業技術機械センター・国連アジア太平洋技術移転センター他の共同主催によるテーマは「エコロジー、健康、発展」として、中国13億の民を養うための食糧・水産物・食品加工品をどの様に第1次、第2次、第3次産業に連結する、いわゆる川上から川中、川下に至る生産・集荷・加工・流通・販売・そして消費までの流通機構を構築していくのか、この会場で、将来的な大きなモデルを見ることができた。

特に、上海、煙台両市の生活環境の印象は、近未来的な建物群や、ヨーロッパの街中でも見ることのできない、ドイツ製の黒色を基調とする高級車が町中を席卷して、疾走するクルマの数は、見る者にとっては圧巻である。しかし、私なりに感じたことは、建物の近代化やクルマの豪華さではなく、極々、普通の生活の中にある「空気」と「水」と食べることへの「安全と安心」の確保が当博覧会の中身を通して、より強く感じたことであった。



左奥の方は、李淑芹女史（人民代表大会主任）

#### 「市委常委」による懇談会：11：30～12：50

○出席者：李淑芹（煙台市会議所主任）、  
祁小青（煙台市商務局・副局長）、載龍成、  
王傑、沈、高興春、調査団一行

#### 9月24日（土）グループ別に博覧会視察と地元企業・団体との懇談。

（注）文中における氏名については敬称略

#### 9月25日（日）平成23年度（2011年度）中国調査の全日程を無事に消化して帰途に就く

08：00 煙台空港発 MU5544 → 09：35 上海浦東空港着  
13：10 上海浦東空港発 NH0920 → 17：00 成田国際空港着（一行5名）  
17：30 上海浦東空港発 → 20：30 広島空港着（小倉通訳担当のみ）

9月25日（日）の午後に上海浦東空港から全員が体調を崩さず、無事に帰途に就くことができた。各自がそれぞれの目的を持って、在中国の担当者と懇談と仕事について推進の約束を締結することができた。

博覧会の視察に鑑み、地元の政府機関と数多くの民間団体のご厚意による昼食会と晚餐会にお招きをいただき、また、現地調査のため、ご協力いただいたスタッフの皆様方に、眞弓団長並びに一同、心から御礼申し上げます。